

石狩市公立小中学校事務職員第49回学校間連携会議

2014年2月21日14:30～
於：石狩市庁舎402号会議室

1. 議長挨拶

2. 経過報告

1月23日(木)	第48回連携会議
1月27日(月)	市内における備品台帳更新の取り組み経過HPアップ
1月30日(木)	2013ふらのフォーラム公式記録HPアップ
2月7日(金)	石教振第3次研究協議会(南線小)
2月10日(金)	第48回連携会議 議案・記録HPアップ

3. 協議題

- (1) 2013年度各グループ反省について
- (2) 「提言2013」(見直し)について～別紙
- (3) 2013年版 石狩市の学校間連携について

4. 実践交流

5. 連絡事項

2013年度 研究グループ反省（アンケート集約結果及び見解 : 回答数5/6 83%）

- 1, 石事協研究課題の究明、解決に向けたとりくみは、十分であったか？
（ 十分3 まあまあ十分1 不十分1 その他 ）

（意見）石事協の課題究明と市内の研究内容がかみ合っていない状況に感じる。

（見解）石狩市は従前より連携会議でのとりくみを市内研究と位置づけて行ってきました。

その内容は石事協からの研究の投げかけと全ては合致していませんが、学校間連携での保護者負担軽減のとりくみなどは、管内研究、実践においても一定程度、なされているように思います。

しかし、市内各校の実践やとりくみにおいて、未だ凸凹の状況が否めないことから、今後も引き続き、とりくみを強化していく必要があります。

- 2, 二次集会レポートの内容、作成などは適切であったか？
（ 十分3 まあまあ十分1 不十分1 その他 ）

（意見）代表者のみが作成で苦労しているように見受けられる。

（見解）石狩市のレポートは経過を十分周知する観点から、従前からの積み重ね部分に当該年度のとりくみを付加し、作成されています。作成過程、作業においては、研究グループはもとより、協議会、連携会議、会員一人ひとりの十分な協力により、とりくまれていますので、次年度以降もこの体制が望ましいと考えます。

- 3, 各研究会参加体制の確立は図られていたか？
（ 十分3 まあまあ十分1 不十分1 その他 ）

（意見）市内会議を含む、欠席者の固定。

（見解）全道研、石教研専門部会など、私たちの大事な研修、業務の一環の場です。

各校、各自ともに諸事情があるかと思いますが、上記主旨を十分に鑑み、積極的参加をお願いします。（研修、業務放棄とならぬように・・・）

- 4, 連携会議との連携は図られていたか？
（ 十分4 まあまあ十分1 不十分1 その他 ）

（意見）なし

（見解）研究内容は今後の実践やとりくみの礎となることから、連携会議と更なる連携を図る必要があります。

予算要望部反省（アンケート集約結果及び見解）

回答数 7 / 9

①予算要望書作成に向けた部会の開催時期については？（今年度5月30日の1回のみ）

（ 十分・・・2 まあまあ十分・・・4 不十分・・・1 その他・・・0 ）

<意見>

- ・できれば2～3程度の話し合いは必要かもしれませんね。
- ・大変かとは思いますが原案決定に一度、まとめに一度の2度は必要かと。但し、会議の前後に持つ方法もあり。
- ・遠方の方、日程等を考えると妥当ではないかと思えます。

<見解>

意見として時期についてはありませんでしたが、回数については2～3回必要、まとめの部会も必要とあります。まとめについては大事なことであり、また部全体で話し合うことも大切と考えますので次年度以降検討していきます。部会の持ち方については月に一度会議があるため、予算要望部単独とするか、会議の前後を利用するかは内容等によりその時々で負担の無いようにすべきと考えます。

②予算要望書内で取り上げている項目（需用費：保護者負担軽減に係る消耗品、印刷関連消耗品、役務費、修学旅行引率者負担等）の、調査内容や調査方法は十分であったか？

（ 十分・・・5 まあまあ十分・・・1 不十分・・・0 その他・・・1 ）

<意見>

- ・今のスタイルは、それなりに定着しましたが、常に改善することが必要です。もっとよくする方法を考えるのと、石事協の、保護者負担軽減と、リンクさせたりくみが必要と思えます。

<見解>

今年度は「修学旅行等に関わる引率者費用負担調査」をより具体的に取り上げました。要望をしていく上で、改善は必要不可欠です。目的が同じであれば各団体、各種調査をリンクさせることにより、改善にもつながっていくと考えます。

③上記以外に何かありましたら、以下に記載してください。

- ・「学校配分予算に関わる学校課題」のようなコーナーで各校が2～3点上げる様な方式も、あってよいではないかと。

例 「本校では、消耗品を2万円くらい少なくしていいので、郵券料を増やしてほしい」

<見解>

協議検討が必要と考えます。一校の声で改善されるもの、複数の声によって改善されるもの、統一できるものは統一するなど、いろいろな方策が考えられます。

- ・1年間お疲れ様でした。
- ・皆様お疲れ様でした。

平成25年度 調査研修グループ 反省集約結果

学校事務の改善について

① 昨年度に続き「備品台帳」を主にとりあげ、今年度完成しました。そのとりくみ内容などは十分であったか？

(十分 5 まあまあ十分 不十分 その他)

意見：備品台帳の完成まで本当にお疲れ様でした。(十分)

見解：当初予定よりかなり遅くなりましたが、平成26年1月に教育委員会よりマニュアルとともに発出されました。打ち合わせ段階では学校教育係と調整を行っていましたが、最終的には総務企画課から出されました。今後の台帳の維持管理、備品一般に関してはそちらが窓口と思われるので、連携をとっていきたいとかがえています。

② 「就学援助事務の手引き」の改訂を行うことにしました。そのとりくみ内容などは十分であったか？

(十分 2 まあまあ十分 不十分 1 その他 2)

不十分、その他に該当する場合は、以下にその理由を記載してください。

意見：現在取組中なのかもしれませんが、私は参加できていません。すみません。

作業に携わっていないので、よくわかりません。(その他)

これから(その他)

見解：12月13日の打ち合わせで、具体的方策と手順を部会員の皆さんに提示しました。それに従って順次進めていきたいと思います。

視察研修等について

③ 今年度は、出前講座も実施しました。他支部交流など、会員の研修に関わってのとりくみは十分であったか？

(十分 2 まあまあ十分 3 不十分 その他)

意見：出前講座しか出席していませんがよかったと思います。

見解：ここ2年、富良野フォーラムに代えるということで具体的には行っていませんでした。今年度は、市内でできるものとして市の出前講座を活用して図書館副館長の丹羽さんに話していただきました。企画自体はよかったと思うのですが出前講座に決めるプロセスがきちんとしていませんでした。次年度は、部員の皆さんにもきちんと確認しながら進めていきたいと思います。

その他

④上記以外に何かありましたら、以下に記載してください。

意見：グループで検討する機会が少なかった。

一部の人の負担にならないよう全体で活動できたほうがよい。（何もしないで申し訳ありません。）

見解：備品台帳が2年目、就学援助の手引きが計画段階と集まる機会があまりありませんでした。ただ、前出しましたが、部会としてすることを決定する場合は集まるべきだと思います。次年度は連絡を密にとりながら、負担にならないように進めていければと思います。

提言1 コピー機・輪転機の更新について

提言内容

1. コピー機・輪転機の更新に際しては、学校との事前協議に基づき進められること。
2. リース料・リース期間、保守点検などの契約内容と更新に関する基本方針が各学校に示されること。

説明

連携会議事務局は、市内各校のコピー機・輪転機の実態について、2009年に続きリース・買い取りの別、リース業者、リース期間、消耗品単価等の調査を行い、さらに今回の調査では納入月日・年間平均枚数・保守点検の有無を追加の調査項目として調査を行いました。

調査の理由は、

昨年度の機械の納入に際し、以前と同様に事前協議もなく業者が新しい機械を搬入したという学校からの報告があったからで、事前協議があれば、使い勝手や価格面から、より対費用効果の高い機種選定が行えたのではないかとのことでした。

調査の結果

- ①旧市内は市教委管轄であり浜益・厚田地区は支所の管轄である。
- ②コピー機・輪転機とも旧市内では3社がリース業者となっていて、浜益・厚田地区は1つの業者が入っていて厚田地区の学校は10年近く更新されていない。
- ③主にリース業者(＝メーカー)によって、コピー1枚単価に差があり、その差は最安2円から最高3円で1円の差があった。
- ④輪転機において保守点検を結んでいる業者と保守点検を結んでいない業者があり業者の違いにより故障時の対応に学校間格差がある。
- ⑤カウンター数の大小にかかわらず更新年度が決められている。

コピー代金は配分消耗品での支出のため、コピー単価は予算執行上大きなウエートを占めています。価格決定の過程が学校職員にも明らかになっていることが、節約を励行する上でも必要でありカウンター料は全校同額が望ましいと考えられます。

①②の調査結果より担当管轄の格差を解消するためには、旧市内と浜益・厚田地区すべてにおいて同じ条件で更新されることが必要です。

なお、今年度にあっては、市教委総務企画課より更新のお知らせと学校要望についての聞き取りが実施されましたが、このような対応が今後も継続されることが必要です。

また、リース料・期間や保守点検などの契約内容と更新に関する市教委の基本方針もあらかじめ各学校に明示されることで、故障時の対応や更新の見通しが立ち、校内でのより適切な利用をすすめることができると考えられます。保守点検は全校の全機種で加入されることが望ましく、学校によっては耐用カウンター数を超えた機種を継続して使っている学校もあるのでカウンター数を更新時期の判断に加味することが必要です。

小学校1校・中学校1校以外ではコピー(複合)機以外にFAXもリース契約され導入されています。しかし、今後はコピー機においてFAX機能を活用できる事により経費削減につながると考えられます。

2014年 3月改訂

提言 4 学校配分予算等の通知方法について

提言内容

1. 学校配分予算は、市内各校の状況がわかるよう一覧表方式での通知であること。
2. 各学校補助金、備品購入予算、特別支援学級用予算配分についても事務担当者説明会を行い、一覧表方式での通知であること。

説明

現在、学校配分予算については、4月初頭の石狩市学校事務説明会で「学校配分予算決定通知書」により通知をされています。この説明会は主に事務職員が出席をして、事務取扱要領の確認とともに、配分予算の説明を受けています。

しかし、学校で使用可能な予算については、このほかに「学校奨励プログラム等推進事業・特色ある教育活動事業・地域連携事業・外部指導者活用事業、学校教育担当）」、特別支援学級配分予算（消耗品費・備品購入費、特別支援教育担当）、教材備品購入予算・PCソフト教材購入予算（管理課教育総務担当）など多種にわたっています。さらに、学校においては、これらの公費の外に、学校徴収金が教材の確保の上で予算化されています。

連携会議としては、配分通知方法については一度に全ての学校の状況が分かるような方式が望ましいと考えます。その理由は、

各学校の事務担当者は、常日頃効果的かつ効率的な予算執行を念頭に置いて業務にあたっています。そのため他校と頻りに情報交換を行っており、各校の基本情報を持つことは重要です。

②連携会議で、各学校内での予算配分状況进行交流・検証していますが、基本情報として各学校の配分状況を知ることが重要です。

③各学校においては、各種予算配分が一覧表方式で提示されることにより、各予算種別間の調整がより効果的効率的になることが期待できると考えられます。

一部の事業予算について、校内でその配分額や用途について共通理解がはかられていない現状もあるようですが、一覧表方式などで可視化することにより、より一層の適切な執行がはかられると考えられます。

次に、事務担当者説明会についてですが、

執行ルールの解釈などは、市教委の担当者の異動、学校の担当者の異動などによって、すこしずつ変化することがあります。定期的な確認作業の機会として説明会は重要です。

現場での具体的事例や、事務担当者の立場で考えるより効果的かつ効率的な執行方策等について交流する場としても活用が期待できます。

学校予算に係る所管課による担当範囲と対象費目の明確化、及び諸制度や重要事項の説明の場とするため、全課の担当者の出席が望ましいと考えます。

予算執行の適切化がより一層求められている今日、是非とも改善が検討されるべき事項と考えます。

2014年3月 一部追加

提言 6 執行決議書の改善について

提言内容

1. 市経理執行決議書の校長決裁日と執行日は同日でも可とするよう規則を改正すること。

説明

市経理執行決議書の処理にかかわり、現在、購入についての校長決裁を受けてから納入業者に発注をするいわゆる「執行月日」まで、2日以上期間を空けることとの指導を受けております。これは、契約規則上、「300万円未満の契約については見積書徴収依頼日を2日間とする」との理由とされます。

しかし、予定価格が10万円未満については、平成16年4月から見積書の省略ができることになったため、「2日」の期間については、その必要が消滅していると考えられるので、決議書作成の効率化の観点から「同日可」とすべきと考えます。

連携会議としてこのことに言及する理由は、学校の実態として当日発注当日納入しなければならないことが現実であり、そのように納品されている実態があるからです。これは、「学校が予算執行を計画的に行っていない」ということではありません。もし、校長決裁後、発注を2日間待たなければならないとするならば、例えば明日の授業でどうしても使いたい教材があり、しかも業者が在庫を保持しているばあいでも、予算担当者は発注できないこととなります。

学校現場では、授業に使用するため「当日発注・当日納品または翌日納品」ということが現実であり、決済から発注まで「2日」を待てないのが実態です。このような学校の実態及び決議書作成の効率化という観点から、連携会議としては「同日可」とすべきと考えます。

もちろん、「執行決議書のつじつまを合わせればよいではないか。」という意見もあるかと思いますが、つじつま合わせの処理をせずに、実態に即した処理をする方が、問題になっている「あずけ」「差し替え」などの不適切処理を防ぐことになるのではないのでしょうか。たとえば、執行決議書に添付する納品書には、学校で日付を入れ、請求書には学校においても日付を入れないことになっています。これは、月末一括処理を行うためのつじつま合わせだと考えますが、日付の入らない納品書や請求書を業者に出させることの方が不適切とは考えられないのでしょうか。市経理のような決議書による予算執行手順は、どこかで暗黙の了解（つじつま合わせ）が起きるのは避けられません。しかし、一方で現場は規則を遵守しようという意識も常に作用しています。不要につじつま合わせを求めることになりかねない仕組みは速やかに改正して、適切且つ合理的な手順とすることが必要と考えます。

2014年3月 一部追加

提言9 児童生徒名前ゴム印の公費化について

提言内容

1. 児童生徒名前ゴム印を学校配分予算以外の公費で購入できるように予算措置すること。
2. 公費化の手立てとして、市教委で統一規格にて一括発注し各校へ配付する、などの方法が考えられること。~~の配布を望む。~~

連携会議では、2014年2月に市内各学校の児童生徒名前印の購入に関する調査を2009年に続き再度行いました。その調査結果から分かったことは、

- ①2009年では対応がまちまちバラバラであったが、2014年の時点においては全校において小学校で使用していた児童氏名印は中学校に引き継ぎされている。
- ②ゴム印の調達方法については、2009年ではほとんどの学校が学校徴収金での購入であり、保護者が負担している学校がほとんどであった。しかし、2014年においては、公費負担で購入している学校の割合が増えまた、次年度からは大規模な小学校でも公費負担に切り替える動きがあることが分かりました。

連携会議では、名前ゴム印はほとんど事務処理のみに使用するものであり、保護者の負担にすることは適当でないと考え、保護者の負担を軽減する観点からも公費化について検討してきました。

その結果、今現在はすべての学校で小学校から中学校へサイズ違いなどの多少の不便はあるものの、すべての学校で小学校から中学校へ引き継がれることになったことは提言の成果と考えられます。

次に、小学校については入学時に新たに購入する必要があることから、公費で購入するための予算措置をしなければなりません。しかし、最大規模の南線小学校における購入総額も20千～25千円とそう多くはないものの、配分予算を圧縮することになり、その結果 PTA 会費から支出するなど、間接的な保護者負担となっている学校もあることから、基本的に名前印は配分外予算として位置づける必要があると考えます。

配分外での予算付けとの観点から一つの方法として市教委において統一規格により一括発注し、各校へ配付することが考えられます。~~していただけると規格も統一されるので市教委での対応を望みます。~~

なお、名前印の購入費用負担に関わる基本的考え方については、前段でも述べたとおり事務経費と考えますので、安易に家庭からその費用を徴収することのないよう、教育委員会として見解をまとめ、必要に応じて各学校に対しその考え方について周知すべきと考えます。

2014年3月改訂